守谷市北部地域包括支援センター



70代 男性のケース



- ○ひとり暮らし (親族不明)
- ○アパート住まい
- ○所得は国民年金(低所得)
- ○やせ型 ひげは伸ばし放題
- ○税金等滞納あり
- ○令和3年度に何度か社会福祉課へ相談
- ○社会福祉協議会のフードバンクを令和3年度4回ほど 利用
- ○介護保険未申請
- ○医療受診なし
- ○認知症の疑いあり
- ○人当たりは良く, 受け入れに拒否はない



70代 男性のケース



介入のキッカケ

令和3年11月18日夕方に社会福祉協議会から健幸長寿課へ,「認知症を疑う高齢者が社協にいる」と情報提供。

本人と面談

- ○身体機能は自立。
- ○何しに社協に来たかわからない
- ○住所も言えない。
- ○周囲が暗くなったため、市で本人宅へ送る。
- ○本人へ道案内してもらう→社協から自宅アパートまで は問題なく道案内可能。
- ○本人と居室へ伺うと、電気が止まっていることが判明 (5日間程度止まっていた)



70代 男性のケース



チーム形成(役割分担)

- ○守谷市北部地域包括支援センター認知症初期集中支援チームによる医療受診調整 (もの忘れ外来・内科一般)
 - →アルツハイマー型認知症の診断 介護保険代行申請
- ○社会福祉協議会 ライフラインの支払い手続き(公共料金引落とし等)
- ○健幸長寿課 親族関係不明なため成年後見制度市長申立てにおける 戸籍調査実施→市内に30年来会っていなかった娘を確 認。娘へ成年後見制度の申立て支援を実施し、申立て

を行い、後見人(社会福祉士)が選任される。

現在の課題

4

○本人の意志決定

食生活をはじめ見守りの不足から、アパートでの生活が困難な様子だが、 本人がアパートでの生活を希望。

今後の対応

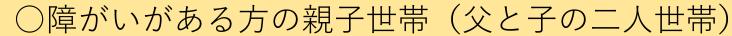
本人・後見人を中心としたチーム形成を行い、本人の意志決定支援を実施。



守谷市南部地域包括支援センター



90代(親)60代(子)



- ○今年、87歳の妻が病気で急死した。
- ○他に頼れる親族なし
- ○父は高齢であるが自立
- ○子は20代に脳腫瘍により、身体的・判断能力の低下 等の後遺症がある。
- ○これから親子それぞれの生活上の心配がある。
- ○成年後見制度について関心がある。





90代(親)60代(子)



介入のキッカケ

父から最近、子の様子がおかしい(転倒が多い)とのことで、先々の相談を行いたいと地域包括支援センターへ相談。

地域包括支援センター職員が親子と面談

- ○父は、高齢ながら自立であり認知症の疑いはない
- ○子は、脳腫瘍の後遺症から、動作がゆっくり。 複雑な会話は困難など若干の判断能力の低下が見受け られる。
- ○面談の結果、緊急対応は必要ないが、世帯への支援が 必要。



90代(親)60代(子)



チーム形成(役割分担)

- ○守谷市南部地域包括支援センター包括的な相談支援相談の窓口の役割
- ○社会福祉課子における障がいサービスの検討・調整
- ○健幸長寿課成年後見制度申立てにおける親族支援





90代(親)60代(子)

現状

地域包括支援センター職員が中心となり支援 入院中の子→介護保険申請し、施設方向へ進めていく 父→子に対しての成年後見申立てを検討



地域包括支援センター職員と、守谷市成年後見中核機関でペアを組み、父による親族申立て支援を行う。

父も高齢のため、能力次第では市長申立てを検討してい く予定。